

令和6年度第2回丹波市「トライやる・ウィーク」推進協議会（会議録）

発言者	内 容
	1 開 会 2 挨拶 3 令和6年度の取組について（報告） ・市内の状況について ・令和6年度の成果と課題について 4 協議内容 （1）令和6年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」について（報告事項より） （2）令和7年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の実施について
吉竹会長	失礼します。 本年度、この会の会長を仰せつかっております吉竹でございます。市の教育委員会の教育長の職務代理者ということでやらせてもらっています。よろしくお願いいたします。 ただいま事務局の方から、今年度の取り組みを中心に、次年度に向けての課題ということも少し触れていただきながら、報告をいただきました。まず今年度の報告について、ご質問をいただいて、そして、その中から、次年度に向けての、引き継ぎといいいましようか、さらに、7年度のトライやるが進められるような、そういうご意見をたくさん頂戴できたらなと思っております。 せっかくの機会ですので、おひとり必ず何か一言ご意見をいただけたらというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。 なお、発言をいただく際には、所属とお名前をお願いをしまして、発言をいただきたいと思います。よろしくおねがいいたします。 それでは、まず最初に、ただいまの報告、今年度の実施の状況につきまして、ご質問がございましたらお受けをしたいと思いますが、どなたかございませんでしょうか。 はい、それでは淵上委員お願いいたします。
淵上委員	丹波市の教育委員、淵上です。よろしくお願いいたします。 以前、事前に資料いただいてた分とか、読ませていただきました。 毎年のことだと思うんですけども、チラシの配布ですとか、ホームページの掲載ですとか、事業所への依頼などたくさんのごことを事前準備していただいて、とても早い段階から準備していただいたことで、子どもたちがこのように活動できたことを本当に感謝

	申し上げます。 アンケートとか読ませていただいて、事前の手引きとか読ませていただいたときに、不登校傾向にある生徒の活動参加についてすごく効果が期待できたということも書かれておりますし、教職員のアンケートを見させてもらいましたけれども、支援学級の生徒も含め全員が参加できたというようなことも書かれていますが、これについて詳しく聞かせていただけたらと思います。
尾松	失礼します。やはり直接いろんな体験ができるというところを、学校も保護者も本人も感じているところだと思います。なかなか普段学校には来づらいんだけど、そういうところで体を動かしながら地域の人と一緒に市内の事業所等で活動することで、自信をつけたりとか、社会の仕組みを垣間見たりというふうなところで、当然、学校の職員も、保護者であったり本人に強く働きかけはしていると思われます。それに、本人なり保護者が応えて、ちょっと行ってみよかというところで、当然、初めて行くような場所に行くわけですから、緊張感も疲れもあると思うんですけども、そのあたりをうまく事業所の方と情報共有しながら活動に取り組むことで、事業所さんも状況を分かった上でお伝えしているというところがあると思います。 ですから、あまりこう無理をさせるわけではなく、負荷をかけるわけでもなく、その子のペースを守りながら、伝えたいことは伝えるっていうようなスタンスで取り組まれているというお子さんが非常に多いと思われるので、行って安心して活動に参加できるというふうに思われます。 当然学校の情報共有であったり、理解を求める手間がきつとあると思いますし、なかなか簡単にはいかない部分もあると思うんですが、今年度につきましては本当にそれがうまく連携がとれて進められたのではないかなというふうに感じています。
吉竹会長	よろしいですか。今のことに関連して何かございますか。よろしいでしょうか。
平瀬委員	学校から様子を言わせていただきます。
吉竹会長	はい、お願いします。
平瀬委員	私、柏原中学校の平瀬といいます。よろしくお願いします。 本年度柏原中学校の方で、不登校という形で参加をした、そういう形になっている子が2名いたと思いますが、1名は残念ながら、事業所を決めるという段階でもなかなかこっというところが選べず、そのまま不参加になりました。 1名については、簡単に言うと別室登校している子がいたんですが、その子については頑張って、事業所での活動に参加をすることができたということを聞いております。 比較的休みが多くなってしまったりする子もいたんですが、最初言わせてもらった1名以外については、全員参加ができた、毎日という形にはなかなかなかったところ

	もありますが、それでも、ほぼほぼ参加ができたというように思っております。以上です。
吉竹会長	はい、ありがとうございます。
西田委員	中学校からです。不登校傾向の生徒についても、例えば支援を要するような生徒についても、それぞれの興味のあるところを選択できるっていうところが大きいかなというふうに思います。職業体験のみならず、文化体験等からも選択できますので、自分の興味があるところ、活動できるところを保護者の方と相談しながら選択して、意欲的に参加した生徒が多かったように思います。
吉竹会長	ありがとうございました。 不登校の生徒さんも、これを機会に参加ができるということ、前々からそういう傾向があるということで、大変ありがたいことだなあというふうにお聞きをしております。 トライやるの期間参加できた生徒ですね、トライやるが終了後、学校への登校の状況でありますとか、その辺りはどうでしょうか。
西田委員	全部が全部っていうわけじゃないですけども、すぐに学校に登校っていうふうに結びつかないケースも多いかなとは思いますが、それをひとつの機会にして、あとに繋がるっていうことで、ひとつその子にとっては大きなきっかけであったり、保護者の方にとっても大きなきっかけになったんじゃないかなと思います。
吉竹会長	はい。ありがとうございました。 今不登校の生徒さんにかかる状況の話ができましたけれども、その他それに関連してご意見、ご質問ありましたらお願いします。
多次委員	すみません。丹波市商工会の多次と申します。 中学校様にお聞きしたいのですが、この事業に関して、業者様と特に我々の方がこの件でお話をする機会はそこまで多くはないんですけれども、先ほどありました、不登校で、事情を抱えた生徒さんの受け入れに対して事前にそういった情報を受け入れ先にお伝えしたりだとか、その件で受け入れがそういう話が出たときに対応が変わってしまったりだとかいうことがあったりするのか教えていただけたらと思います。
西田委員	事業者様の会社の対応ということですね。申し上げにくいんですけれども、あることはあります。 多くの事業者様が非常に好意的な形で、様々な生徒を受け入れてくださることもあるんですけれども、支援を要する生徒のみならず、ちょっと男女っていう形でも、すでに受け入れの形であったり、そういうことは早くに言っといてもらわないっていう形で言

	われることが数少ないですけれども、あることは事実だなというふうに思います。
多次委員	早く言っという欲しいというのは、前のタイミングでそういう方がいるというのはお伝えはしにくい状況ですか。
西田委員	校内の方で、こういうことが実際にあったという形では、職員はしますけれども、なかなかそのやはり校区推進委員会等でおろしていただくなり、学校からは、直接言いにくい状況ではあるかなと思っています。受け入れてもらえるだけで、なかなか他のことが言いづらいというのは正直あるかなと思っています。
平瀬委員	すみません。 事業所さんが受け入れるにあたって、こういうふうな条件でっていうことは当然数少ないですけど、やはりあります。 ただ、決まった場合、この子を受け入れてもらえると決まったその子にやっぱり課題があるという場合については、事前訪問であつたりだとか、教師が最初に挨拶に行ったときだとか、そういったときに、こういう生徒が今年お世話になりますという情報は伝えるようにしております。当然配慮が必要な部分についても言って、大きなトラブルに発展しないようにということでは各校取り組んでおると思います。
多次委員	ありがとうございます。
吉竹会長	よろしいでしょうか。はい。他にございませんか。上羽委員 お願いします。
上羽委員	失礼します。教育委員の上羽です。 生徒アンケート等を見ていて、各項目すごく伸びがあつて、報告書とかも見ててもすごく充実されてたんだなっていうのがわかる。わかるしこの数字的にもしっかり表れてるなと思うんですけども、来年以降、これをもっと良くしていくためには、という部分でも、今年、結構去年がちょっと下がっているのがまた逆に目立つんですけども、何か要因的なものとか取り組みの工夫とかがもしあつたら教えていただきたいなと思います。
吉竹会長	これどうでしょう。事務局。よろしくお願いします。
尾松	まず、ひとつは事前事後の学習、動機づけ・意識づけのところで、各校にお願いをして、充実した取り組みになるようにであるとか、実生活との結びつきが弱いというところをちょっと意識した取り組みをしてほしいと折に触れてお願いをしているというところを、学校の方もちゃんとしていただいて、生徒にかかわっていただいたというふうに、それだけではないかと思うんですけども、それも一つの要因かなというふうに思いま

	す。
山本課長	すみません。失礼します。学校教育課の山本です。 コロナはあると思います。令和2年は中止ですし、令和3年、4年は3日間のみっていう活動で、令和5年度は5月8日に第5類に変わったという状況の中で、6月のトライやる・ウィークがものすごく警戒されたような事業者があって、受け入れがそこまでなかったとか、活動が制限されたとか、子どもも希望した事業所になかなか行けなかったというような状況が、今年度、元に戻って、事業者さん側からしても、子どもからしても、思った通りの活動ができたっていうのが大きいんじゃないかなと思います。
吉竹会長	学校の方はどうでしょうか。
平瀬委員	柏原中学校の平瀬です。 3日間の活動であった時っていうのは、充実したとかいうところ、これが実生活とか将来の進路選択に影響したっていうところがどうしても下がるのはやむを得ないなということで、それこそ昨年度については、5日間に戻ったということで、大きく改善されることを期待しましたが、昨年度はあまり上がらなかったということでした。 昨年度から今年にかけ、大きく変わったところっていうのが、特段多くあるわけではないと思うんですけども、やはり何とかその部分はやる以上は、やっぱりここが一番大事なところだということは、学校の方でも話をしたりだとか、その辺が多少影響したのかなと。大きく何かしら変わったというところはないと思うんですけども、そういうところかなと思っています。
西田委員	私は、個人的には今おっしゃられた通り、コロナの影響が大きいんじゃないかなというふうに思います。コロナで下がったことによって、行かしていいのか、やっていいのか、受け入れるのかみたいなのところがあったと思いますので、ある意味、今年はそういうことをあまり考えずに進めることができたかなというふうに思っております。
吉竹会長	ありがとうございます。上羽委員よろしいでしょうか。他に何かございましたら。はい。お願いします。
井上委員	社会福祉協議会の井上です。 先生も、子どもの希望があって、大変苦勞されてるというように思います。 5日間されているんですけども、事業所によっては3日間におさえなければならない。大変苦勞があると思うんですけども、どういうふうに調整されているのですか。
西田委員	他の学校が全てというわけではないかもしれませんが、できるだけ子どもたちの希望を優先したいというところもありますので、2日であっても3日であっても少ない

	日数であっても、第 1 希望のところは行けるような形で調整しております。ただ、残りの日数をどう過ごすかっていうところがまたひとつポイントとなっております。残りの日数を受け入れていただける事業所様にお願いするしかないっていうところが実際のところでありますので、子どもたちの意欲がなかったというふうにとらえられるところもあるかと思えますし、その辺、受け入れていただけるというところで、あう日数が、そうたくさんあるわけではありませので、だから事業所様の中でも、5 日間来てくれたらよかったのになとか、今年の生徒はちょっとねっていうようなお言葉を聞かせていただくこともあります。
吉竹会長	井上委員よろしいですか。
井上委員	はい。ありがとうございました。
吉竹会長	他にございませんでしょうか。 丹波青少年本部から数元委員、お越ししいただいておりますけども何かご意見ご質問ございませんでしょうか。
数元委員	すみません。大木に代わりまして数元と言います。初めての経験で。私、篠山なんですよ。ですから、丹波市さんのことを聞いても、事前に読んでも何にもわからんという形でして、意見言われても、特にございません。見たところ、皆良い経験やったとか、勉強になったとかという話がほとんどでしたので、充実したかなと思っております。
吉竹会長	ありがとうございました。 坂谷委員
坂谷委員	丹波市自治会の坂谷です。よろしくお願いします。自治会の方から言わせていただきます。私市島町です。市島町の自治会長で、私個人的にいつもほとんど毎年、事業所に出向いております。その中で、体験に来ている子どもらに声をかけてやってほしいということは言っています。 それと、一番最初、この役さしてもろてから、お世話になってる事業所へ、毎年行かせてもろうとるんですけど、受け入れ先の方も一生懸命させていただいているということを商工会の関係の方からも聞いています。以上、報告です。
吉竹会長	ありがとうございました。 石塚委員、何かご意見等ございましたらお願いいたします。
石塚委員	公募によります市民ということで、参加させていただいてます石塚です。よろしくお願いいたします。

	毎年トライやる・ウィークを実施されてるということは、555名の生徒を237の事業所に本人の希望を加味しつつ振り分けられるなど、すごく手数のかかった大変な作業だと思います。大変なその作業の苦勞を、毎年やっているからということじゃなくて、企業さんもそうですし、学校関係者の方もそうでしょうし、いろんな方が協力されて、今年度実施できたということに対して「大変ご苦勞さんでした」とそういう気持ちであります。 実施後もアンケートが詳細に渡って作成され、また小冊子が大変記念に残ると思います。子ども一人一人にとっても良い思い出に残ると思います。大変いろんな意味で、アンケートには子どもの成長とか、家族のこともそうでしょうし、それ以外のいろんな表にも出てない子どもの成長にとって良い影響が与えられたかなと思っております。 来年度につきましても、実施されると思うんですけども、今年度の詳細にわたるアンケート結果なども生かしながら、より充実したトライやる・ウィークをますます子どもたちの成長のために、また、将来の地域のためにも頑張っていたきたいなと思います。どうもご苦勞様でした。
吉竹会長	ありがとうございました。 まだ少し時間があるんですけども、私の方から一点質問をさせていただきたいと思います。 校区推進委員会の役割ってというのは、この部会では丹波市全体の状況をご説明をいただいて、そして、来年以降丹波市全体としてトライやるをどうしたらいいのか、こういうふうにやっていけばいいのかなというお話をさせていただく会だというふうに承知はしております。 校区推進委員会でそれぞれの中学校区、このトライアルをその地域の状況に応じて、どのように進めていくかということで大変核になるんじゃないかな、当然学校の運営協議会も合わせて中心になろうと思いますが、今日報告をしていただいた中で、校区推進委員会の機能が果たされているかという項目の中で、6校中2校がですね、あまり機能していないというご報告がございました。そういうふうになりましたが、いろんな点で、足りなかったなあ、こういうことをしたらよかったなあという当然ご意見が出たと思うんですが、事務局の方としてですね、あまり機能していないという、具体的にですね、こういうところが不十分だったということ、把握をされている部分がありましたら、この場を出していただいて、その部分をどのように改善していくかということ、次年度に向けて返していくということも大変必要になるんじゃないかなというふうに思うんですが。その点は事務局の方何か把握をされておりましたらお願いをいたします。
尾松	はっきりとしたものをこちらの方がつかんでるというわけではないんですけども、話を聞いている分につきましては、やはり受け入れ先を開拓したりっていうのが、どうしても学校中心になってしまう面もあるように聞いています。先ほどから出ています5日間通して受け入れていただけたところは、なかなか確保しづらい状況にある中で、学校

	としても2日に分けてみたりとか、場合によっては4日と1日に分けてみたりというふうな工夫もしていただきながら、何とか希望に沿うように、事業所の割り振りをして、学校の方は苦慮している。それを何とか5日間通して行きたいところに行けるように、校区推進委員さんの方でいろいろと当たっていただいて開拓してもらえたらなというふうな思いは、学校の方にはあると聞いています。ただ、難しいのは、そのようにして開拓してきていただいても、残念ながら生徒の方が希望しないというところもあったりするので、そのあたりが、なかなか難しいのかなと聞いております。
吉竹会長	はい。ありがとうございました。 大体それぞれご意見をいただいたところですが、来年度に向けて、こういうふうな取り組みをしっかりとやっていけばいいんじゃないかというようなご意見が特にございましたら、お聞きをしたいと思いますけども。何かございませんでしょうか。
尾松	来年度につきましては、丹波市の中学校校長会との確認で、6月2日の月曜日から6月6日の金曜日を中心とした5日間の事業所体験活動を行うというふうに聞いております。6月2日から6日を中心とした5日間、このように聞いております。
吉竹会長	はい、ありがとうございました。 令和7年度については、6月2日の月曜日から6月6日の金曜日にかけて実施を予定ということで。その他、何かご意見、ご質問等ございませんでしょうか。 教育長ありますか。
片山教育長	各学校ごとに調べたわけではないけど、小学校、認定こども園に行く子どもさん毎年多いのではないかなと思うんですけど。先生になりたいから行くということかなと思ってみたり、行きやすいのかなと思ってみたり、なんか理由があるのか、行きやすいのかな。知ってる先生がいるからとか、そんな理由なのかな。いろんなところ経験してもらうのがいいのではないかなとは思いますが。 教師不足で困っているので先生になる人が増えたらいいんですけどね。 もし、何か答えられたらお願いします。
西田委員	なりたい子もいるとは思いますが、行きやすいっていうことも当然あるかなというふうには思います。 あと、こちらからお願いして、小学校での事情もわかっていただいているので、そこで受け入れていただくということも無きにしも非ずですけども。うちの校区推進委員会の方でも出たんですけども、子どもたちが知らないものを選ぶっていうのはなかなか難しく、製造業等見にくいところについてはなかなか希望がいきにくい状況です。それをどうアピールするかっていうのは今後の学校の課題かなというふうに思うんですけども、やはり子どもたちが見えやすい学校の先生であったり、量販店とか公共医療と

	か、食品レストラン的なところとか、そういうところに目が向きやすいっていうのが現状であるかなと思います。
片山教育長	そういうことなら上羽委員さんにお尋ねしたいのですが、上羽委員さんところは毎年どの程度受け入れられていますか。
上羽委員	いや、うちはねえ、やっぱ危ないんで、なかなか製造業って受け入れにくいところもあるし、今先生もおっしゃったんですけど、興味なくて当たり前かなっていうのもあって。やっぱり目に見えるところに、まず仕事に興味を持ってもらってっていうところになると、我々みたいな業種は、募集するハードルも実はちょっと高いっていうのは、うちの会社は、危険というか、軽作業がないんです。他の製造業の方ともそういう話はしたことあるんですけど、どうしても作業させてしまうような形になってしまって、体験してもらって要素が薄くなってしまいうという話をしたことがありますね。
吉竹会長	教育長よろしいですか。
片山教育長	はい。
吉竹会長	他にございませんでしょうか。
西田委員	今年一年担当させてもらっての意見なんですけれども、やはり、さっきも言われていたように、校区推進委員会をどのように機能させていくのかなっていうことは課題かなと思っておりませんが、学校も担当者が毎年変わっていったり、今年においては、多くの学校で校区推進委員の代表の方が代わられたのではないかなと思っております。トライやるの趣旨等が、推進委員さんであったり、事業所の方に、なかなかきちんと説明するところがないかなという、そういう場がなかなか設けられていないのが現状ではないかなというふうに担当して感じました。 校区の中で、新しくそういうことを協力してやってみたいんだけどっていうふうに声をかけていただく事業者さんがおられる中で、毎年受け入れていただいているんだけれども、トライやるの趣旨をどのあたりまで理解していただいているのかなというふうに疑問を持つようなこともあるのも事実です。 ただ、担当が年々変わって、学校の中で変わっていく中できちんとトライやるの趣旨等を説明して、協力していただけたところとか、そういうのもちょっと課題なのではないかなという形で、ちょっと市内の中で、広報いただいたり、趣旨説明していただけたような場であったり、そういう登録バンク的なものを作っていただけたありがたいかなというふうに感じました。
吉竹会長	はい、ありがとうございました。

	トライやるの趣旨の周知をきちっと押さえて、企業さんにもご説明をする。これはそれぞれの校区推進委員会ということではなくて、同じですのね、トライやるの趣旨というのは。これは今もご意見がありましたように、主としてパンフでありますとか説明会でありますとか、いろんな方法があるかと思いますが、それを今一度、確保したり、確認をして欲しいというご意見だったと思いますが、事務局の方向かございましたら。
尾松	その辺りも教育委員会としても検討させていただきますし、第 1 回目の会議の会議録をホームページにアップさせていただいて、広く市民の方にも啓発しているところでございます。 また、本日の会の会議録の方も、後日ホームページにて公開をさせていただくことになっています。そういった活動を地道に続けながら、また、トライやる・ウィークが近づいてきましたら、こういった趣旨だということも何らかの形で示すことができたらなと思っています。
吉竹会長	はい、ありがとうございました。他に。
平瀬委員	すみません。
吉竹会長	はい。
平瀬委員	先ほどから何回か同じようなことが出ている部分があるんですが、校区推進委員会というのが、大体、各校 2 回開いておるんですが、冊子ができて、まとめの段階が 1 回、後、こういうふうにスタートしますっていう、ある程度決まって、本当にスタートする直前という大体その 2 回なんです。 始めますよっていう、大体こういうものですっていうときにはなかなか難しいんですが、終わった後の会議のときに、ある程度こういう業種が少ないですっていうことがいえるように、学校の方でも早めにアンケートをとって、伝えるようにはさせてもらって、その上で何とか、新しい事業所の方を開拓して欲しいというようなことでお願いをしておるんですけど、なかなかそれがうまく間に合わなかったり、ちょっとタイミングがずれてしまうというようなところがどうしてもあります。そういったところも、できるだけ学校の方では、先を見通して、このタイミングでこれを伝えておかないと駄目だということは意識しながらやっておるんですが、担当者が毎年毎年変わるので、そのあたりがうまく引き継がれていないと、事業所が足らないんだけど、今からスタートしますというタイミングでいくら言ったり、来年度は何とかしましょうと言っても、また、次の年を迎えてしまうというようなことが、どうしても繰り返されているところがあるのかなというふうに思います。
吉竹会長	はい、ありがとうございました。多次委員。

多次委員

はい、すみません。受け入れ先の代表として出させていただいているのでひとつ情報提供というか、今後の傾向だと思うんですけども、今受け入れ先が 237 社ありますけれども、おそらくですが、賃上げの問題であったりとか、今 103 万円の壁とか言われている働き方改革の関係もありまして、今経営者さんの間では、人を雇うことができないという中小企業ですね、そういう状況にもうすぐなるという話が出ています。

特に、2028 年、4 年後には、雇用保険の適用する週の時間が半分になります。

今、週 20 時間以上働いてる方については、雇用保険の適用となりますので、雇用保険料発生するんですけども、それが 4 年後に半分の週 10 時間になります。となると今、週 5 日間、午前中、午後なり、片方で 4 時間ずつ働いてると、それ以上働く雇用形態が発生して、労働者の折半ですけども、事業者の負担があるわけですが、それが 10 時間となると、もう週 2 日ほど働いてしまえば、操作適応になります。となると、働いて欲しい人材が欲しいんだけど雇うことができないという状況になって、この本トライやる・ウィークの事業についても、公のところ、団体だとか大企業さんに、おそらく受け入れ先が限られてくるような状況になってくると思われれます。

その中で、生徒さんの意見を第一にして受け入れ先の方を調整するであるとかっていうことがますます難しくなるような状況になると思われれます。

日程につきましても、第 1 回の会議でありました 5 日間なのか 3 日間なのかというところ、実行効果という話もありましたけれども、実情に合った形、もう少しで 30 年ぐらいこの事業もされているような格好になると思いますけれども、もう少し変化の方を考えていかなければならないのかなあというところ、経営者サイドの目線としては、本当にすぐ実情として迫っております。

そういったところでですね DX、デジタル化ですね、そういったものを駆使したりだとかということで、人をなるべく使わないような動きで、事業が回るような仕掛けを人口減少に備えての動きを国の方も進めております。

また、今ですと副業人材ということで、都市部、地方部においてもそうなんですけれども、会社に勤めることなく、その都度、オンラインでできる仕事については受けるというような形での人材活用がすでに始まっております。

特に地方部でも特にシングルマザーさんであるとか、なかなか会社勤めというのが時間的な制約があったりだとかっていう人材に対して有能な方については、オンラインですねちょっと大企業から仕事を受けるっていう形で成功されてる方が多数おられます。

そういった中で、今まで我々が考えていた会社勤め、働くということ、それを中学校 2 年生の多感な時期に経験するというのが、なかなか我々の通ってきたレールとは違うような形で、特に今年の中学 2 年生、それ以降の方につきまして先ほどの雇用保険の適応の問題もあって難しくなるという恐れがあります。

そういったところを踏まえまして、どうあるべきかというところについては、県の方でも話にも挙げていただけたらと思いますし、受け入れたくても受け入れられないという実情が今後出てくるということをやっとお含みおきいただきたいと思います。以上で

吉竹会長	す。 はい、ありがとうございました。大変貴重な情報といいたいしょうか、お話をいただきました。他にございませんでしょうか。 特に無いようでしたら、そろそろ予定をしておりました時間にも迫っております。 トライやる・ウィークの冒頭にございましたように、今年で 27 年ということで、30 年近く続きまして、1 つの施策といいたいしょうか、事業で 30 年続くっていうものはそんなにないと思います。 27 年続いたというのは、やはり効果があった成果があった、或いはこれから成果が出てくるだろうということを信じながら、それぞれ地域であったり、受け入れをいただく事業所であったり、そして家庭であったり、そして、いろいろとご苦労していただける学校がそれに向けて、生徒の成長に向けて取り組んできた 27 年であったというふうに個人的に思っております。 ただいま多次委員の方からもご指摘、報告といいたいますか情報の提供がございましたように、社会そのもののありようが変わって、そして仕事の仕方も変わっていく中で、このトライやる、言いかえまして、子どもたちの成長に資する大変重要なこの体験の活動をどういうふうに今後続けていくかという、これからその過渡期になるといいたいしょうか、変わり目の時期を迎えるのかもわかりません。 ただ、子どもたちの成長にとって何が大事なんだといいたうことの、その基本的な足元といいたいしょうか、支柱を忘れないでどう取り組んでいくかといいたうことを、今後、丹波市のトライやるの推進協議会の中で検討していけたらいいな、或いは地域ごとに検討していただけたらいいなといいたうふうに思っております。 細かなことですけどひとつ思っていることがございます。 毎年 5 月の下旬ぐらいになると、私は柏原町なんですけども、柏原町の有線放送がかかります。 その時に、中学生の女の子の声で放送が始まりまして、何を言うのかなと思ったら、「柏原中学校の 2 年生です。代表の誰々です。何月何日から私たちはトライやるに行きます」といいたう放送をしてくれます。 その放送を聞いて、「今年も始まるんだなあ」といいたうことを思い、そして、地域全体でトライやるが始まるんだといいたうことを把握をして、知って、そして、自転車ですつもと違う格好で登校している、事業所へ行く子どもたちに、「頑張りよ」といいたうて声を掛ける一週間が始まります。 こうして地域で育てて支えてもらったり、また、今後、受け入れの形態が変わるかも知りません事業所の方の受け入れで、この事業は成り立っております。 家庭でも、毎年受け入れの事業所の方でも、何が大事かといいたうアンケートの中で、「挨拶
------	---

尾松	がきちっとできる」、「時間が守れる」、「社会のルールやマナーが大切である」ということが大きな項目のやはり上位に出てきてございます。 これは、学校地域だけでなく、当然、家庭でしっかりと身につけさせていただきたい事柄でもあります。そういう意味で、このトライやるというのは、地域、学校、家庭、事業所の協力をいただきながら、進んできたものでありますので、今後ともいい形で推進ができるように、丹波市の教育委員会の方の事務局としていろいろとお世話になりますけれどもよろしくお願いしたいと思います。 今日はそれぞれの立場で貴重なご意見をいただきました。 また、貴重な情報提供をいただきました。 今後の推進の指針にしたいと、このように思っております。あまり上手に進められなくて申し訳ございませんでしたけども、ここでマイクを事務局の方にお返しをしたいと思います。 よろしくお願いいたします。 ありがとうございました。皆様のご協力によりまして無事全日程を終了することができました。本当にありがとうございました。 なお、本日、発言いただいた会議録を後日送付させていただきますので、発言の内容等をご確認いただきまして、何かありましたら事務局の方まで届けていただけたらと思います。 なお、会議録の方は先ほど申し上げましたように、市のホームページに公開させていただきます。 それでは、以上をもちまして、令和6年度第2回丹波市トライやるウィーク推進協議会を終了させていただきます。 本日は本当にありがとうございました。
-----------	---